

第3章 言葉

「たしかにかした」

「てんぐのぐんて」

「よるにんじんるよ」

「イカのダンスはすんだのかい」

「やきいもおとすとおもいきや」

◆「回文」かいぶん 上から読んでも下から読んでも同じ音（オン）になる文。回文も新しい。

好きな言葉

「おはようございます」は好きな言葉

朝七時、中井町の童謡の会に行くために小田急線に乗った。車掌の車内アナウンスがあった。「おはようございます。本日も、小田急を御利用いただきありがとうございます。一瞬、さわ

やかな秋風が吹きぬけた。

松田町の川音川の橋の手前の横断歩道で交通整理をしている高齢者がいる。「おはようございます。いつもご苦勞様です」。六十五歳を過ぎた私は、こんな言葉の一つも言えるようになった。ますます修業を積んで、みんなのお手本の老人になりたい。

四月、小学生の集団登校が行く。先頭の子が「手をあげるんだよ」と言うと、続く一年生も一斉に手をあげて渡り始めた。先頭の子が「手をあげるんだよ」と言うと、続く一年生も一斉に手をあげた。ところが、最後の六年生の男の子二人は、「手なんてあげない」と言った。今は、大人が手をあげているのを見たことがない。大人があげなければ、子どもはあげるはずがない。

今日も、いつもの緑のパーカーを着た見守りボランティアの高齢者がいた。「おはようございます。ご苦勞様です」と挨拶した。すると突然そのボランティアの人が小学生に向って「急いで、緊張を持った行動！」と怒鳴った。私は「はい、すみません」と言った。子どもたちは、親にも「急げ、急げ！」と言われ、やさしく見守りをしてくれるはずの高齢者からも急せき立てられる。子どもも忙しい世の中です。

自転車の事故も多発している。朝は自転車が猛スピードで通り抜ける。ハツとすることもしばしばです。自転車は車なので車道を走るように指導されているが、車道は狭く危ない。特に川音川の橋の上は、バスが通ると巻き込まれる危険がある。歩道を、歩行者と自転車が譲り合い、事故にならないよう、自転車はゆっくり走り、後ろから人を追い越す時は、「おはようございます。左側通ります」と声をかけるようにしてほしいです。

「癒し」は好きな言葉

三月は卒業のシーズンです。小学校の校庭に卒業生たちの作品がある。NHKテレビのアナウンサーが「これは何でしょう」と質問した。男の子は「癒しです」と答えた。アナウンサーは驚いて「癒し！」と言った。次の言葉がみつからなかった。六年生の男の子から「癒し」という言葉を聞くとは思っていなかったからだ。私も驚いた。それ以来、頭から離れない言葉になった。

「親しき仲にも礼儀あり」は好きな言葉

結婚してしばらくして、母が、「博明さんは、親にも敬語を使うねえ」と言った。夫は「親しき仲にも礼儀あり」を座右の銘にしている。親戚、親、家族、友人知人、だれにでも丁寧な言葉で話す。礼儀正しい。高校まで山形県で育ったが、山形弁は話さない。聞いたことがない。穏やかな標準語です。「僕ほど丁寧な人はいない」と言う。私は見習いたいと思っています。

「継続は力なり」は好きな言葉

童謡の会は、もうすぐ創設三十周年になります。よく続いたものです。最初からの会員から「先生、継続は力ですよ」と言ってもらった。この言葉が励みになっている。まだまだ頑張ろうと思っています。このように、ひとにかける言葉は大切です。

嫌いな言葉

「あいまって」は嫌いな言葉

「あいまって」という言葉ほど嫌いな言葉はない。気位きぐらいの高い高齢者が好んで使う言葉とされていたが、最近では若い人も使う。

人気の女性歌手が奈良の大きな寺で派手なコンサートをした。NHKテレビの若い男性のアナウンサーが「歌が全体の厳おこそかな雰囲気とあいまって」と言った。天気予報士の若い女性も「雨と風があいまって」と使った。

私が「フィギュアスケートでは、多くの選手が『オペラ座の怪人』の音楽を使う。踊りやすいのかしら」と言うと、「音楽が演技とあいまって選手を引き立てるのでしょう」と夫が言った。「あいまって」という言葉は、みんなが使う。よい言葉かもしれない。

「大変だアねえ」は嫌いな言葉

「大変だアねえ」私は、この言葉を聞くと、やる気を失う。ほめ言葉ではないし、応援をする言葉でもない。

庭の草むしりは趣味でやっている。晴れた日、気持ちがいい。草むしりは最高の至福しふくの時だ。道を行く人に、「土地が広ければ広いで大変だアねえ」と言われる。

童謡の会は、私の生きがいで行っている。プリントや資料の準備、マイクなどの荷物の運搬は

楽しい。ルンルン気分だ。会員から「毎回、準備をするのは大変だアねえ」「大荷物で大変だアねえ」と言われる。

津久井やまゆり園で事件を起こした青年が、「僕が『介護の仕事をしています』と言うと、みんなが『大変だアねえ』と言った。僕は介護の仕事は大変だと思っていなかったのに」と言った。これは、ウソか本当かわからない。青年の率直な気持ちであっても、「重度の障害者は、この社会に必要な、いなくなればいい」と、十九人も殺してしまった青年に救いはない。

「うざったい」は嫌いな言葉

「うざい」「うざったい」は東京の方言。他の地域で使うこともある。今は面倒な感じを表す言葉として若者によく使われているが、元は「気味が悪い」という意味だった。いずれにしても使いたくない言葉です。言われた人の気持ちになってみてください。

「すげえ」は嫌いな言葉

義足で走る人たちを見て、今一番売れている漫画家が「みんな、すげえ楽しそうですね」と言った。テレビの字幕には「みんな、すごく楽しそうですね」と出た。

落ち込んでいた少女が、車椅子から義足をつけて立ち上がり、風を切って走るアニメの制作中だという。漫画家は、「風を皮膚に感じて走る」これを表現したいと熱く語った。画面いっぱいタンポポが散って、風に乗って空に舞うアニメ、美しい。それでも「すげえ」は嫌いな言葉です。

奇妙な言葉

「ながら歩き」奇妙な言葉

駅のアナウンス「ながら歩きは危険ですからおやめください」。「ながら歩き」とは聞きなれない奇妙な言葉です。昔は、なかった言葉です。スマホでゲーム「ポケモンGO」をしながら歩いていて交通事故が多発、死者まで出ている。

二宮金次郎像も批判の対象になっているようだ。歩きながら本を読んでいるため。二宮金次郎像はスマホでゲームをしている訳ではないので同じにしないしてほしいものです。「ながら歩き」の青少年は何を考え、どこへ行くのだろう。

「真逆」奇妙な言葉

「真逆」(名詞 形容動詞 ダ型活用)は、まったくの逆。正反対の意味。「夫は、私とは真逆の性格です」と使う。すでに三省堂国語辞典に掲載されている。新語ではない。

平成十六年(二〇〇四年)に流行語大賞にノミネートされ脚光をあびた言葉。もとは映画業界用語。照明技術のひとつで、カメラと正対する位置から照明を当てて人物を暗く見せる手法だという。

三省堂国語辞典によると、「まさか」(副詞)は、(一)ありそうもない・(起こりそうもない)ようす。よもや。「まさか知るまい・まさかの初戦敗退」と使う。(二)いくらなんでも。「まさ

かことわるわけにも いかない」と使う。

(三) 万まんいち。「まさかの場合」と使う。この時の「まさか」は平仮名で書く。

タレントが、ニュースの解説者が、大学の教授が、「真逆」という言葉をテレビで使うたびに違和感を覚える。夫に、「違和感を覚えるのは、なぜでしょう」と訊ねると、「年を取ってしまつて、若い人の言葉についていけないからさ」と答えた。

「長生き」 奇妙な言葉

「長生き」は、不思議な言葉です。使う人によって嬉しく聞こえたり、奇妙に聞こえたりする。ピアノの調律師が帰りがけに「母が長生きをしてくれて、今年百歳になったんですよ。九州の老人ホームにいるんです。なかなか行ってやれないんですけど」と嬉しそうに話した。「それは、いいですね。おめでとうございます」私も嬉しくなった。元気をもらった。

お坊さんがお盆の檀家回りに来られた。母と話しているのが聞こえた。「おばあさんは、いくつになられたの」「九十です」「ウチの親戚にも同じぐらいの高齢の人がいるんですよ」「長生きしんだあねえ（長生きをしてください）」「そうだね」。私は、お坊さんの言葉が奇妙に聞こえた。それからしばらくして、お坊さんは母より先に亡くなってしまった。

母は九十六歳まで長生きをした。九十五歳の夏、食欲が亡くなり胃ろうを作ったが翌年春、枯れるように静かに亡くなった。テレビニュースで「三年もつ」と聞いた胃ろうは、半年ももたな

かった。

「長生きしんだあねえ」と、お坊さんが母にかけてくれた言葉が繰り返し思い出されます。大正四年生まれの母は、戦前・戦中・戦後を生き、九十六歳まで長生きをして幸せだったでしょうか。

詐欺師は言葉巧み

テレビの人気番組『世界一受けたい授業』で、「最新版！詐欺の手口巧妙ワナ『押し買い』」。担当の先生が、「詐欺師は、好人のように見える」と、聞き覚えのある言葉を言ったので驚いた。番組では、青年の販売員が高齢の男性に布団を高額で売りつけようとする。続いてやって来た老人の販売員が、しつこく迫る青年を謝らせて青年を帰らせ、代って老人が家に上がり込み長時間話した上で、布団を高額で売りつけた。青年と老人はペアーの詐欺師だった。高齢の男性はだまされてしまった。

担当の先生が「この老人の販売員が詐欺師に見えますか」。ゲストの人たちは「詐欺師になんか全然見えない」「好い老人だよ」と口々に言った。

わが家の玄関で土下座をした女の事を知人に話すと、「あの人は、好人のように見える」「地域の道のゴミ拾いの清掃にも参加している」「大声で笑い、明るい人」と言う。詐欺師は口がうまい。言葉巧みに近づいて来る。

「明日、必ず返すからサ、お金を貸してくんない」「何に使うの？」返事が無い。「どうしても必要なの、明日返すからサ、お金貸して」「洋服とか買って、派手に使っているように見えないけれど、何に使うの？」返事が無かった。

女は必死に言葉をたたみかけ、愛想好くすり寄って来た。近所に住んでいても親しく付き合っているわけではなかったが、一瞬「いくらぐらいかな、困っているようなので貸してあげてもいいかな」と思った。貸さなかったのは、何に使うかわらなかつたからだ。「明日返す」と言っているのにも不信を抱いた。明日返せるのであるなら、今日は借りずに、お金の用途が立つ明日まで待てばいいではないか。

私は時々思い出している。「これは詐欺師の手口だ。ひっかからなくてよかった」と胸をなでおろしている。

子ども番組を観る

Eテレ『にほんごであそぼ』は、月曜日から金曜日。朝、六時三十五分から四十五分までの放送です。

小の月

「小の月」について、この侍が教えてくれます。

「二(に) 四(し) 六(む) 九(く) 十一(さむらい)、小の月」。

平成三十年の「小の月」は、二月二十八日、四月三十日、六月三十日、九月三十日、十一月三十日。それ以外の月は「大の月」で三十一日までである。これは子どもの頃教えてもらった。子どもの頃学習した事は、よく覚えている。

鼻に響かせて「鼻濁音」

「鼻濁音」は、「がぎぐげご」のガ行の音を「んが んぎ んぐ んげ んご」という感じで、鼻から抜けるように発音する鼻音のこと。

語頭の「がっこう」の「が」、「ごはん」の「ご」は濁音の発音になる。語中の「のこぎり」の「ぎ」、「めがね」の「が」は鼻濁音で発音する。「雨ががり」も。「鼻濁音」は、発音の事典では濁音と区別するため「ガギグゲゴ」と書く事もある。

『にはんごであそぼ』で、「華麗に鼻濁音」の歌と踊りを放送した。歌は、ちびっこ男子ユニット、「ちーむ★ひこ星」君たち五人。ハンサムな、あもん君、てるみ君、かいと君、はるとも君、けいと君。小さい子たちに大人気だ。みんながまねをして気分よく歌って踊る。「鼻濁音」の勉強になる。

華麗に鼻濁音

作詞…うなりやべベン 作曲…祐天寺浩美

「ガ」「ガ」「ギ」「ギ」「グケゴ」「グケゴ」

♪いかした男は鼻から おしゃれに「ガ」「ガ」「ガ」「ガ」

あの娘こが見てるよ やさしく見つめて「ギ」「ギ」「ギ」「ギ」

とどめに強さを さり気なく「グケゴ」「グケゴ」(ゴー！ゴー！)

ガギグケゴ (ヘイ！) ガギグケゴ (ヘイ！)

びだ〜くおんおん びだ〜くおん 鼻かたに響かせて愛語るのさ

♪夢みる男は夜空を見上げて「ガ」「ガ」「ガ」「ガ」

愛するあの娘に鼻を響かせて「ギ」「ギ」「ギ」「ギ」

美しい言葉あふれ出す「グケゴ」「グケゴ」(ゴー！ゴー！)

ガギグケゴ (ヘイ！) ガギグケゴ (ヘイ！)

びだ〜くおんおん びだ〜くおん

鼻から優しく 思い届けよう 鼻から抜くのさ 華麗かたに鼻濁音 (ヘイ！)

続いて朝八時からNHKテレビ朝の連続ドラマ『べっぴんさん』が放送された。主題歌はMr.Childrenの「ヒカリノアトリエ」。出だしは「♪あめ あ がーりの そらに」。「が」が、大声の濁音だ。印象に残る歌詞、「がーりの」とは、いつたいたんだらう。「が」が鼻濁音でないから、おかしいのだ。Eテレが、子ども番組で注意をうながしているとは奇妙だ。

「○○○○」クイズ

マルに入る言葉はなんですか？

朝、頭がシャキーンとしていないとできない。

一、伸び放題の草は？ 「ぼうぼう」。

二、お腹が空いた時は？ 「ぐうぐう」。

三、月が明るいうすは？ 「こうこう」。

四、螢を呼ぶときは？ 「ほうほう 螢こい」。

いくつできましたか？ 私は四番しかできませんでした。朝、ぼんやりしていました。夫も即答できず、「難しい」と言いました。

ちよちよいのちよい暗記

『にほんごであそぼ』で放送している「ちよちよいのちよい暗記」が大人気だ。

例えば、東海道五十三次宿場町（一級）、二十四節気（二級）、1より小さい数（三級）、月の名前（四級）、魚づくし（四級）、数の単位（五級）、相撲の決まり手（五級）、賀寿（六級）、手まりうた（六級）、論語（七級）、十二ヶ月（七級）、寿限無（八級）、いろは（八級）、うめらう売り（八級）、かぞえうた（九級）、十二支（九級）、春の七草（十級）、モシヤシヤ（十級）など。

四歳の子どもの暗記力は、すごい。四歳の女の子が「論語」を唱える。「まい、四歳です。論語いきます。『しのたまわく、われじゆうゆうごにしてかくにこころざす（吾十有五而志于学）。さんじゆうにしてたつ。しじゆうにしてまどわず。ごじゆうにしててんめいをしる。ろくじゆうにしてみみしたがう。しちじゆうにしてこころのほつするところにしたがつて、のりをこえず』八十は、ないの？ 大きくなったらお医者さんになります」。

一人だけではない。四歳の女の子が「十二ヶ月」を唱える。「かの子です、四歳です。十二ヶ月いきます。『卯月（うづき） 皐月（さつき） 水無月（みなづき） 文月（ふみづき） 葉月（はづき） 長月（ながつき） 神無月（かんなづき） 霜月（しもつき） 師走（しわす） 睦月（むつき） 如月（きさらぎ） 弥生（やよい）』 おわり」。夫と一緒に観ている、「すごいなあ」と言った。

三歳の女の子は「賀寿（がじゅ）」を唱える。「賀寿」つてなに？

「還暦（かんれき） 古稀（こき） 喜寿（きじゅ） 傘寿（さんじゅ） 米寿（べいじゅ） 卒寿（そつじゅ） 白寿（はくじゅ） 上寿（じょうじゅ） 茶寿（ちやじゅ） 皇寿（こうじゅ）」。

さらに、二歳の子も「みかです、二歳です。がんばります。『モシヤシヤのシヤ、シヤシヤモシヤシヤ、モシヤシヤなければ、シヤシヤもシヤもなし』おしまい」。

◆「モシヤシヤ」とは、関西を中心に伝わるまじない言葉で、糸がこんがらがったときに、節をつけて唱えながら解いていくと、容易にほどけるといいます。五・五・七・七なので簡単に覚えられます。

今日は二歳の女の子が「十二支」を唱えた。「子(ね) 丑(うし) 寅(とら) 卯(う) 辰(たつ) 巳(み) 午(うま) 未(ひつじ) 申(さる) 酉(とり) 戌(いぬ) 亥(い)」。すばらしい。

◆「十二支」は、年を数える言葉です。年だけではなく時間や方角を表す時にも十二支を使っています。

昔は、暗記は小林一茶や松尾芭蕉の俳句だった。上の五文字を母親が言くと、下の十二文字を子どもが言う。二児の母になった娘は、「今でも覚えている」と言った。

- ・ 雪とけて村いっぱいの子どもかな 一茶
- ・ やせ蛙まけるな一茶これにあり 一茶
- ・ 山路来て何やらゆかしすみれ草 芭蕉
- ・ 古池や蛙飛びこむ水の音 芭蕉

俳句は「いもじもじ」

『にほんごであそぼ』では「いもじもじ」の歌で、俳句は五・七・五だと教えている。五歳の子が俳句を作って発表する。楽しそうだ。

「いもじもじ」 ななもじなもじ いもじもじ

- ・「せんめんき ゆぶねにおくと たいこだよ」
- ・「せつけんは つるつるすべる つるつるる」
- ・「おにくはね おなべでやくと いろいろる」
- ・「あかちゃんはおっぱいのむと ねてしまふ」
- ・「おうえんの こえがいつぱい さかあがり」
- ・「ほじよなしを ためしてみたら すーいすい」

◆ラツキイ池田の言葉「これまでいろんな作品を作つて来ましたが、やはり代表作といえは『にほんごであそぼ』の「ごもじもじ、ななもじなもじ、ごもじもじ」でしょう。これは作詞？も僕です。振り付けは、モジモジするだけ。俳句の「五・七・五」を「ごもじもじ、ななもじなもじ、ごもじもじ」と置き換えたんです。これだけでも、作詞印税が入つて来ます。流行のものもあるけれど、なんといつてもこれは、ずっと残つて行く作品だと思います。……」

「こどもたち、どんな大人に、なるのかな」。

はんじ絵

「判じ絵」^{はん} Ⅱある意味や形を文字・絵の中にかくして、あてさせるもの。

『にほんごであそぼ』を覗いていると、「尻をまくつてオナラをしている着物姿の男の絵が描いてある」札と、「大きな岩の描いてある」札が出た。これを組み合わせると何という言葉か？ というのです。私は「何だろう、わからない」と思つて覗いていた。みなさんは、わかりますか。

次に、答えの漢字が出た。「平和」だった。私は、「エッ、エエーッ！」と思った。オナラは、なんておかしいんだ。だれが考えたのでしよう。「平和」は、こんなあつかいをしていいの？

・「岩の上に鶴が二羽、くちばしをつけている」という絵が出た。何という言葉か？「宇宙」なるほど。

・「菓」と「牛」では何かな？「すもう」だって。

・「齒」と「戸」では何かな？「はと」。これは簡単。

・「齒」と「ネコが逆さに寝ころんでいる絵」は、「箱根」。

・「すり鉢にすり棒 その中に目玉が沢山入っている絵」は、「するめ」。

・「ゾウ」と「金太郎が上半身だけ描かれている絵」これは「ぞうきん」だね。

・「ゾウが二頭いる」のは、「雑煮」。

・「大きな鈴に目を書いてある」のは、「すずめ」。

・「台」に「キツネがのっている」のは、「大根」。

・「齒」と「葛飾北斎の波の絵」は？「はくさい」。北斎もビックリだね。

葛飾北斎の作品の中で躍動感あふれる大波が船を翻弄するようすを描いた「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」は、特にすばらしい。ゴッホは弟のテオに宛てた手紙に「この波は爪のようだ。爪がまさに船を捕らえようとしている」と驚きをつづっている。

今まさに旅姿の男が山に通じる道を一步踏み出そうとしていた。

「千里の道も 一步から」。

次に、それを見ていた犬が餌を食べて尻尾をふった。

「千里の道も 尻尾から」笑った。頭の中で両方が交互に出て来て何度も笑った。子どもたちは、
覚えただろうか。

◆「石橋をたたいて渡る」。次に、「石橋をまたいで渡る」が放送された。おかしいね。

おやおよ

「おおきくなったら よんでほしい おはなしの よこくへん」本の紹介もしている。

『蟹工船』女の子が「蟹食べたーいー」と言った。「何か勘違いをしていないかい」。

『怪人二十面相』「この続きがおもしろいよ。ママが助けに来てくれるかな」。

『里見八犬伝』「猫は何匹出て来るかな」。

『一握の砂』「五・七・五・七・七、これは短歌だよ」。

『銀河鉄道の夜』女の子が「どの乗り物に乗ろうかな」と言った。

『モモ』女の子が「桃だあい好き」と言った。

『恩讐の彼方に』女の子が「ぜんぜん知っている言葉がないよ」と言った。

『杜子春』『走れメロス』『人間失格』『吾輩は猫である』『風の又三郎』『変身』……みんな名作。

私の中学校には「必読書」というのがあった。国語の先生が選んだ本だ。次々読んで感想を書

いた。読書好きになった。先生に感謝しています。

平成二十九年十一月十三日、人形劇で『ごんぎつね』が紹介された。私が主宰している童謡の会では童謡『ごんこん小狐』（作詞・濱田廣介 はまたひろすけ）作曲・中山晋平）に関連して童謡『ごんぎつね』（作・新美南吉 にいみなきち）を紹介した。

一人ぼっちになった「ひょうじゅん」と「ごんぎつね」。鉄砲の音、「おまえだったのか、いつも栗をくれたのは」。童謡の会員みんなが最後の部分に感動した。私は号泣した。「さようなら、ごん！一緒に泣いてあげるよ。人間の人生も同じで、『あの日』のやり直しはできないんだよ。『次』はないんだよ」。

新鮮な童謡・唱歌

『にほんごであそぼ』では、童謡や唱歌が歌われる。例えば「旅愁」「たきび」「スキー」「スキーの歌」「ペチカ」「早春賦」「靴が鳴る」「あの町この町」「雨ふり（アメフリ）」「こんぴらふねふね」「ずいずいずつころばし」「黄金虫」「朧月夜」「椰子の実」「雨降りお月さん」「浜辺の歌」「うみ」「鉄道唱歌」「故郷」「村祭」「夕日」「待ちぼうけ」「冬景色」……が歌われる。

「**村の鍛冶屋**」(「はたらき者」「なが年きたえた」「うちだすすきくわ」と歌っているので、タイトルは「村のかじや」が正しい。昭和二十二年発行『四年生の音楽』文部省掲載)。

「どじょっこふなっこ」「しがこ」は間違い。「すがこ」と歌うのが正しい。秋田市立金足小学校の歌碑に書いてある。

「あわて床屋」(「シャボン」を)をひとまとまりの言葉として「しゃぼんをーとかーし」と歌うのが正しい)。

「茶摘」(タイトルは「茶摘」が正しい。「茶摘み」は間違い。明治四十五年発行『尋常小学唱歌』第三学年用(文部省) 初出掲載)。

「夏は来ぬ」(棟(あふち)は古語。「あふ」は「オー」と発音するので「おーち」と歌う。現代かなづかいでは「おうち」と表記する。子ども番組なので、表記のまま「おうち」と歌っているが、ここだけ現代かなづかいではおかしい)。

「毬と殿さま」(次第にテンポアップして歌うように編曲してある。これはすばらしいアイデア。長い歌が、最後まで短い放送時間にはいる。「とおーりへ」「みかーんに」と歌うのが正しい。放送では「とーおりへ」「みーかに」と歌うように編曲してある)。

どれも新鮮に聴こえるのは、編曲のためです。この番組では編曲者(おおたかしずる)の名前が出る。日本では編曲者は、おろそかにされがちです。(おおたかしずる)は歌を歌う、いい声だ。七色の歌声を自在に操る。「童謡や唱歌は歌われなくなった」というのは誤りで、歌われている。

◆「おおたか静流」は、昭和二十八年(一九五三年)四月十一日生まれ。東京都出身のミュージシャン。武蔵大学人文学部卒業。七歳よりクラシックを習い始め、大学在学中に音楽活動を開始(当初は「大高静子」名で活動)。その後、民俗音楽(日本の伝統音楽・西洋の伝統的声楽)・ジャ

ズ・ワールドミュージックなどノンジャンルの独自の音楽性を追求。ソロ歌手としては平成二年（一九九〇年）テイチクよりデビュー。美しい歌声とスタイルに圧倒される。

かわる子ども番組

『にほんごであそぼ』では、中原中也の「サーカス」「汚れつちまつた悲しみに……」、宮沢賢治の「永訣の朝」「雨ニモマケズ」「風の又三郎」、清少納言の「枕草子」、山村暮鳥の「雲」も朗読される。悲しいフレーズが胸を打つ。これは子ども番組かと疑う。

コンサートホールに集まった子どもも親も「寿限無」を唱える。みんな楽しそうだ。

「寿限無（じゅげむ） 寿限無（じゅげむ） 五劫（ごこう）のすりきれ 海砂利（かいじやり）水魚（すいぎよ）の水行末（すいぎようまつ） 雲来末（うんらいまつ） 風来末（ふうらいまつ） 食（く）う寝（ね）るところに 住（す）むところ やぶらこうじの ぶらこうじ、パイポ パイポ パイポの シューリンガン シューリンガンの グーリンダイ グーリンダイの ポンポコビーのポンポコナの 長久命（ちようきゆうめい）の長助（ちようすけ）」。

◆長い名前によって起こる笑いを主題にした古典落語の一節で、「寿限無」から「長助」までが、一つの名前。「寿限無」≡限り無い幸福（長く生きて、おめでたい）。「五劫のすりきれ」≡劫（こ

う)は仏教などインド哲学の用語で、極めて長い宇宙論的な時間の単位。サンスクリット語のカルパ (Kalpa) の音写文字「劫波(劫簸)」を省略したもの。天女が三千年に一度下界に下るたびに羽衣で岩を撫で、岩の表面が微に擦り減り、それを繰り返した。岩を擦り切るのに要する時間が五回(五劫)。つまり永久に近いほど長い期間のこと(別の落語もある)。「海砂利水魚」
 〓 海の砂利や水中の魚のように数限りないことのとえ。「食う寝る所に住む所」
 〓 衣食住は欠かせず、これらに困らずに生きて行ける事を祈ったもの。「やぶらこうじ」
 〓 生命力豊かな縁起物の木(藪柑子)の名称。「ぶらこうじ」
 〓 単に語呂の関係でつけられた。

話し変わって、「パイポ パイポ パイポの シューリンガン シューリンガンの ゲーリンダイ ゲーリンダイの ポンポコピーのポンポコナ」
 〓 昔、「パイポ」という架空の王国の「シューリンガン」王と「ゲーリンダイ」後の間に生まれ、超長生きをした双生児姉妹の名が「ポンポコピー」と「ポンポコナ」。長久と長命を合わせて「長久命」
 〓 長く久しい命、めでたい言葉。長く助ける「長助」から成る名前(インターネットによる)。

子ども番組が、これだけ変化している。童謡の会も新しい曲を取り入れ、新感覚で元気に歌って行きたい。意識の高い童謡の会にしたい。

ETテレ『0655』

『0655』は、Eテレで朝、六時五十五分から五分間放送している。知識がギュッと詰まっています。楽しい番組です。

朝飯前クイズ(1)

「11が55になる、なんだ？」というクイズが出題された。エツ、なんのこと？

「時計の長い針が11を指すと55分になる」「11(『0655』)が7時をおしらせします」
だれが番組をつくっているのだろうか。

朝飯前クイズ(2)

「一||1」「二||2」「三||3」「四||5」「五||4」「これは、なにかな？」なんだろう？

答えは漢字の画数。なるほど「四」の画数は「5画」、「五」の画数は「4画」ですね。

朝飯前クイズ(3)

「5より2が強く、2より0が強く、0より5が強い、これなんだ？」全然わからない。

答えは「ジャンケン」。「5」||パー、「2」||チョキ、「0」||グー。なるほど。

朝飯前クイズ(4)

「5角形と6角形でできた丸いものは、なんだ？」

答えは「サッカーボール」。

朝飯前クイズ(5)

「ボトルに、あと何ミリリットル入るかわかるのは、どうすればいいか？」

答えは「ボトルを逆さにする」。

朝飯前クイズ(6)

「30円持って買い物に行きました。15円の買い物をしました。おつりはいくらでしょう。」

答えは「5円」。これは簡単。

朝飯前クイズ(7)

「〔田中〕の漢字には、四角がいくつあるか？」

答えは「12個」。真四角が5個、長四角7個。これも簡単。

童謡の会で出題した。みんな真剣に考えた。特に田中さんは一生懸命だった。

朝飯前クイズ(8)

「け め は い て」さて、何の事でしょう？

答えは一文字の体の漢字「毛 目 齒 胃 手」。「は」のところまで唱えるとわかる。

朝飯前クイズ(9)

「星★の中に三角形はいくつあるか？」

答えは「10個」。頭が混乱する。

朝飯前クイズ(10)

「白い犬と黒い犬、どちらが静かか？」

答えは「黒い犬、黙る」。

朝飯前クイズ(11)

「3つに切るのに6分かかる。では、6つに切るには何分かかかるか？」

答えは一回切るのに3分かかるから、五回切るには15分かかる。図を書けばわかるが、それは時間がかかりすぎて朝飯前クイズにならない。

朝飯前クイズ(12)

「(タコ)たす(イカ)＝18とすると、(ツル)たす(カメ)ひく(かかし)たす(へび)＝いくつ？」
答えは「5」、足の数だよ。これも、すぐわかった。頭がシャキーン！としてきた。

◆「タコの足は8本」「イカの足は10本」といわれますが、実は一般的に足と呼ばれる部分は本当は腕であり、イカもタコも足は存在しない。ちなみにイカのそれは外見では8本しか見えませんが残りの2本は、普段は体の中に収納して獲物を捕える時に使う触腕と呼ばれるもの。

朝飯前クイズ(13)

「パンダの尻尾は何色か？」「黒だったかな」

「違います。答えは白です。観ているようで、観ていないものですねえ」。

朝飯前クイズ(14)

「浦島太郎が竜宮へ乗って行くカメは、メスか、オスか？」「エッ、わからない」「答えはメスです。卵を産むために海岸に上陸するのはメスのカメだからです」「なるほど、勉強になりました」。

落語も新しい

平成二十九年四月二十三日、日曜日の午後、テレビをつけると「野球」「囲碁」「競馬」「ゴルフ」「クイズ」「落語」をやっていた。Eテレで二時三十分から「落語」を観ることにした。以前、夫が「何も見る物が無ければ、Eテレを観ましょう」と言ったのを思い出したからだ。

落語ザMOVIE・E

演目「転失気(てんしき)」

和尚さんが病気になった。医者が、「てんしきは、どうじゃな？」と訊いた。和尚は「てんしき」とは何かわからなかったが、医者に問いただすわけにいかず、あいまいな返事をした。和尚は頭のいい小坊主(ちんねん)を呼んで、「てんしきを、預けておいたが持つてきなさい」と言ってみた。すると(ちんねん)は、「和尚様、てんしきとは何ですか？」と言った。

和尚は困って、「隣りの花屋へ行って借りておいで」と言って(ちんねん)を使いに出した。花屋も困って「昨日まで二つあったが、一つは神棚に飾って置いた物を親戚が来て持つて行った。あと一つは、あと一つは、えーと、今朝、みそ汁に入れて食ってしまったから、ない」と言った。それを聞いた和尚は、(ちんねん)に医者の方に薬を取りに行かせ、ついでに「てんしきとは何ですか？」と質問するように、「ただし和尚が訊いて来いと言ったとは言わないぞ」と言った。(ちんねん)は、医者に訊いた「てんしきとは何ですか?」「おならじゃよ」。(ちんねん)は、

和尚が知らない事を悟った。そして、「てんしきとは、和尚様が大切にしている盃(さかずき)です」と言った。

翌日、医者診察に来た。和尚は「てんしきを御覧に入れましょう」と言った。医者は仰天して、「そんなものが見られるのですか?」と、いぶかしがった。「これへちんねん、てんしきを持って来なさい」。へちんねんは、隣りの部屋で腹を抱えて笑い転げていた。

医者は、出された箱の紐をほどきながら、「ここに入っているのですか? フタを開けたら臭くないですか? 色は黄色ですか? これまで生きて来て本物を見たことがない」。……

「転失気」 〓 「おなら」のこと。

落語家が話すのだが、テレビを見ている人には映像(芝居)が進行する。時々落語家も映る。落語家がしゃべるだけで、芝居をしている人は口をパクパクするが、セリフを言わない。昔あった活劇(トーキー)チャンバラ映画、そしてチャップリンの時代のそれだ。

「転失気」の場合、出演者は「医者」「和尚」「小坊主」「花屋」それに「落語家」だ。落語家の話をずっと聞いているより面白い、わかりやすい。これは、テレビ時代の新しい落語の形だ。

落語には必ず「前座」がある。若い新米が務める。次にやる落語家は客の笑いを観ている。「笑いが堅い」と、今日の客は、あまり落語を知らない、落語を聞いたことがない人が大勢来ていると察して「演目」を変更することもあるのだそうです。

汚い言葉

平成二十八年十月二十一日、午後二時七分ごろ、鳥取県中部の倉吉市や湯梨浜市、北栄町で震度六弱の地震があった。

夜、NHKテレビ『ニュース7』を観ていると倉吉市からの中継で、崩れた建物を見て、取材のアナウンサーが「こりやア、ヤバイなア」と言った。全国放送なので驚いた。「まさか」と耳を疑い、「今、何と言ったのかな」と呆然^{ぼうぜん}となった。

翌日、NHKテレビ『週間ニュース深読み』の冒頭のニュースは、鳥取県中部地震だった。なんと『ニュース7』の倉吉市からの中継、取材のアナウンサーが「こりやア、ヤバイなア」と言っているのが、そのまま使われた。NHKのアナウンサーが「ヤバイ」という言葉を使うのは品格を損なう。

人気のNHKテレビ『探検バクモン』で、司会をしているタレントの爆笑問題の太田光さんと田中裕二さんが、「スゲー」、「まじかよ」、「ちよろいモンだ」と言う。『超絶 凄ワザ!』でも、千原ジュニアさんが、「スゲー」を大声で連発し、笑いを取る。『超絶 凄ワザ!』というタイトルだからといって「スゲー」を連発していいとは言えない。私は学校で標準語を学習した世代です。子どもや孫たちには使ってほしくない言葉です。

外国語

スペイン語講座で講師が「スペイン語には擬態語、擬声語がないので、日本語をスペイン語に訳す時、困る」と言っていた。擬態語「春の小川はさらさら行くよ」、擬声語「ワンワン」「ニャンニャン」と言う言葉はないのでしょうか。

スペイン語にも擬声語はある。ニワトリの鳴き声は「キッキキキ」、牛は「ムー」です。擬態語はどうでしょうか。

東京都知事・小池百合子氏が、教育について「あたくしもそうでしたが、小さい頃からいろいろな国の言葉を学ぶことは、今後の国際社会において活躍の場が広がり有意義なことです」と言っていた。小池百合子氏はカイロ大学を卒業している。

今は、NHKのアナウンサーは誰でも英語が話せる。天気予報士も。話せないのは国民の選挙で選ばれた大臣の方々。恥かしいことです。英語が話せなければ、沖縄で事件が起きても、強くアメリカ軍に抗議することができない。若い女性の通訳を通してでは意志が伝わらない。

昔、相撲の表彰状を外国人が、「ひょー、しょー、じょー、あんさんは、こんばしよにおいて、せいせきが、ゆーしゆーだったので、これを、ひょーしよーします」と読みあげた。会場は笑いの渦だった。小学生の私も笑ったのを覚えている。私たち日本の代表者である安倍総理大臣、麻生副総理、高市総務大臣、岸田外務大臣、稲田防衛大臣、(第三次 安倍内閣・第二次改造)らの英語は、笑いにされていけないか。

今年の一文字^{ひとつもじ}

平成二十八年を代表する一文字は、「金」。オリンピックを象徴している。熊本のクマもんは、「心」を書いた。熊本地震の震災復興に協力ありがとうの感謝の心だ。渋谷では、「米」を書いた人がいた。アメリカの大統領選挙、まさかのトランプ氏当選だ。自分の国さえよければ、それでいいのか。若いNHKの天気予報士は「驚」を書いた。今年は予測できない驚きの天候だった。書いてから「うまくないですが、読めます」と言った。私は感動した。

年賀状は幸せの証し

十一月に入ると喪中の葉書が来る。一枚ではない。その中に「六十六歳の妻を亡くしました」というのがあった。享年六十六とは悲しい。

年賀状が出せることは幸せなことです。年賀状は、自分が一年無事に過ごせたという「幸せの証し」です。そう考えると、「謹賀新年 明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます」と書いてあるだけの年賀状も重要と思います。年を取って来て、年賀状が重みをまわしてきています。